

三菱自動車工業株式会社

株主のみなさまへ



平成20年度(2008年度) 中間のご報告
2008年4月1日～2008年9月30日

株主通信 ROUTE

Drive@earth



Drive@earth

三菱自動車は、“地球を走る、地球と生きる”をテーマに、
地球環境に配慮しながら、地球上のさまざまな地域の大切なお客様に、
「走る喜び」と「確かな安心」を提供することを目指してクルマづくりを進めています。
人とクルマ、社会とクルマ、そして地球とクルマがいつまでも永く共生すること。
それが私たちの目指す未来です。

今、私たちは、地球環境への貢献を企業経営の最重要テーマとして取り組んでいます。

目次

新・企業コミュニケーションワード	1
ごあいさつ	3
環境への取り組み	7
エコドライブのすすめ	9
海外の取り組み — ロシア	10
ショールーム	11
決算の概要	15
財務諸表(連結)	17
会社の概要/役員	20
株主メモ	21

2008年6月、当社は、新しい企業コミュニケーションワードとして『Drive@earth (ドライブ・アット・アース)』を定めました。

これは、「走る喜び」と「地球環境への配慮」を両立させる独自のクルマづくりに取り組み、人とクルマ、社会とクルマ、そして地球とクルマの共生する未来を目指すことを、お約束する言葉です。

走行中のCO₂排出ゼロで、地球温暖化防止に貢献する新世代電気自動車「i MiEV (アイ ミーブ)」の市場投入。軽自動車で培った技術を活用した、燃費性能にすぐれたグローバル・スモール提案。世界の環境基準をクリアしながら、走りの楽しさにあふれた三菱ならではの小型SUVの開発。さらに、新ディーゼルエンジンによるラリー参戦など、自動車による地球環境への負荷低減を使命として、CO₂排出量低減・石油代替エネルギーへの取り組み・技術開発を強化していきます。今後、当社のさまざまな活動を通じて「Drive@earth」をグローバルに展開してまいります。

また、同年7月、当社は環境省が創設した「エコ・ファースト制度」における、「エコ・ファーストの約束」*を提出しました。以下の3つを柱に、地球環境保全への取り組みを、さらに促進していくことを環境大臣に対して約束しました。



「エコ・ファーストの約束」を行った企業に対し使用が認められる「エコ・ファースト・マーク」

1. 低炭素社会の実現に向け、低CO₂排出製品の開発と実用化を推進します。
2. 循環型社会の実現に向け、省資源・リサイクルを推進します。
3. 生産や販売、オフィスを含め、事業活動全体での環境負荷低減を推進します。

株主の皆さまをはじめ、すべてのステークホルダーの方々にご満足いただけるよう、地球環境への貢献によって、さらなる企業価値の向上を目指します。

* 環境先進企業の環境保全への取り組みをさらに促進するために環境省が2008年4月に創設した制度。それぞれの企業が、環境対策を企業経営の最優先事項として先進的かつ独自性のある目標を掲げて取り組むことを環境大臣に約束するものです。



「歴史的大変革期」に臨み、 全社員の知恵と力を結集します。

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

2008年度第2四半期累計期間(以下、上半期)の業績は、世界景気減速、需要構造の変動による販売台数の減少および為替の円高影響などによって、売上高は前年同期比で減収となりました。しかし、販売車種構成の改善やさまざまなコスト低減努力により、台数減少影響および為替の円高影響を吸収し、営業・経常利益はともに増益となり、純利益ベースでは6年ぶりに黒字転換いたしました。

しかしながら、昨今の金融危機、世界的な

経済の大混乱は自動車業界にも深刻な影響を及ぼし、先行きの見通しが非常に困難な状況にあります。これに対し、当社は、全部門を挙げて業務の見直し、コスト削減への新たな取り組みを開始するとともに、中長期視点に立ち一層の「選択と集中」と「業務プロセスの見直し」を進めてまいります。

なお、配当金につきましては、配当可能利益を生み出すには至らず、株主の皆さまには大変申し訳なく存じますが、当上半期も配当金の実施を見送ることとさせていただきます。将来に向けて安定した財務体質の構築に今後とも取り組んでまいりますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

三菱自動車企業理念

大切なお客様と社会のために、
走る喜びと確かな安心を、
こだわりをもって、
提供し続けます。

当社は三菱グループ共通の経営指針である「三綱領」*の精神を受け継ぐとともに、当社の存在意義と進むべき方向を明確にするため、「三菱自動車企業理念」を制定しています。全ての企業活動はこの企業理念に基づいて進めています。

*「所期奉公」、「処事光明」、「立業貿易」

「歴史的大変革期」に即応する体制を整備

米国のサブプライムローン問題に端を發した金融危機は、米国から西欧に飛び火し、新興国にも影響が波及しています。その深刻さは一気に加速しており、全世界的な株価の下落や為替の大幅な変動による实体经济への悪影響が顕在化しています。これは、かつて日本が経験した不動産バブルの崩壊に重なる部分もありますが、世界で同時に金融混乱や景気後退が生じている点で、はるかに深刻な状況であり、「歴史的な経済危機」という認識を持っています。実際、自動車業界への影響も深刻で、とくに米国や西欧では、自動車に対する総需要が大幅に減少しています。これは、消費者心理の冷え込みに加え、信用収縮により、卸売・小売の両面で金融機能が健全に働かない状態に陥ったためです。

さらに、ここ数年、需要の増加が続いていた中国やインドでも、販売が前年を下回



取締役社長

益子 修

る月が出てきているほか、ロシアやブラジルでは、その伸長率が鈍化傾向にあります。このような厳しい状況は来年度も続き、回復は早くとも2010年以降になるのでは、と危惧しています。この歴史的大変革期に臨み、当社では全部門を挙げた業務の見直し、コスト削減に加え、在庫管理の徹底と生産調整、人事・組織の見直し、市場にマッチした新車投入、環境対応モデルの投入、利益重視の販売、アフターセールス事業の

強化、個別事業提携の積極推進など、地道な施策を着実に実行していきます。

中長期視点の地域別施策

世界的な景気後退も地域ごとにその深刻度や影響度は異なり、各地域の自動車市場の状況を考慮して対応していきます。

日本市場は比較的、金融危機の影響が軽微ですが、構造問題から需要の増加が期待できないため、販売効率の向上、アフターセールス等の周辺事業からの収益アップなどに引き続き取り組みます。米国・西欧は厳しい下降局面が続く覚悟をしており、あらゆるコスト削減に努めると同時に、小型車への需要シフトに対応するための商品強化、販売施策を見直します。

また、ロシア、ウクライナ、ブラジル市場では、その伸長率は鈍化傾向にありますが、引続き最重点市場との位置付けで、新モデル投入も含め、中長期視点に立った施策を継

続します。中国では、現地に三菱商事(株)と合併の販売会社を新設し、販売ネットワークの強化により一層の拡販に注力します。

中東市場でも、新会社を設立し、中東・アフリカの販売会社への販売・サービス・部品業務の支援体制を強化します。

さらに、本社組織の見直しにより、アセアン市場での販売支援体制を一層強化します。

また、2008年度下期以降の商品展開としては、昨年よりグローバルに投入してきました「ランサー」シリーズに、幅広いお客様のニーズに応えるためのラインアップ強化を図るほか、新型SUV「パジェロスポーツ」の投入など、グローバル戦略車のさらなる世界展開を図ります。

環境対応技術でクルマと地球の共生を図る

一方で、厳しい経済環境にあっても、環境問題は先送りできません。西欧をはじめとするCO₂の排出規制強化、さらに原油価

格の乱高下が、お客様の燃費意識を高め、小型車への需要シフトに拍車がかかっています。当社は、環境対応のシンボル技術として、「新世代電気自動車「i MiEV（アイ ミーブ）」の開発を進めており、2009年夏の市場投入を目指し実証走行試験も最終段階に入っています（詳細はP7参照）。

2008年6月には、新しい企業コミュニケーションワードとして『Drive@earth（ドライブ・アット・アース）』を定め、“走る歓びと地球環境への配慮を両立させたクルマづくり”に取り組む当社の姿勢を表明しました。

2008年度通期の業績見通し

当上半期の利益は期初計画よりも上振れたものの、自動車業界は世界的な市場縮小に見舞われており、当社も7月以降、各市場で急激な販売ブレーキに直面しています。この厳しい市場動向を考慮し、2008年度通期の業績予想のうち、販売台数、売上高、

営業利益、経常利益をそれぞれ下方修正いたしました。当期利益は期初計画値を目指します（詳細はP16参照）。

現在は「歴史的大変革期」の真っ只中にあります。当社は、販売会社、お取引先とこの認識を共有するとともに、全社員の知恵と力を結集し、新しい経済条件と事業環境の変化にスピード感を持って柔軟に対応してまいります。

どうか皆さまにおかれましても、今後とも倍旧のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2008年11月

益子 修



環境への取り組み

三菱自動車は、企業コミュニケーションワード「Drive@earth(ドライブ・アット・アース)」のもと、地球環境への貢献を最重要テーマとして取り組んでいます。

2009年夏の市場投入に向け、最終段階に

三菱自動車は、軽自動車「i(アイ)」をベースに、大容量リチウムイオン電池と小型・高性能モーターを搭載した新世代電気自動車「i MiEV(アイ ミーブ)」の開発を進めており、2009年の夏に国内市場への投入を予定しています。



北陸3県を走行する試験車

2007年	2008年	2009年
先行試験 東京電力、中国電力、九州電力		
実証走行試験 北海道電力、東京電力、北陸電力、関西電力 中国電力、九州電力、沖縄電力 神奈川県警察、環境省		
▶ 海外での実証試験 米国カリフォルニア州の2電力会社 ニュージーランドの電力会社(2009年以降)		
▶ 電池会社「リチウムエナジー ジャパン」設立 (2007年12月)		
▶ リチウムエナジージャパン新工場整備		
国内市場投入		

当社は電気自動車の早期実用化・普及のため、国内各地の電力会社と「i MiEV」の共同研究に取り組んでおり、2008年5月には、7社目となる北陸電力(株)および北陸3県(福井県・石川県・富山県)と実証走行試験を開始しました。また、7月からは、神奈川県と警察業務に



神奈川県警の警察業務用に改造

TOPICS

『CO₂削減EV洞爺湖キャラバン』に参加し、「i MiEV」が東京～北海道を完走

2008年6月、北海道洞爺湖サミットに先立ち、日本EVクラブ主催の『CO₂削減EV洞爺湖キャラバン』に「i MiEV」他が参加。東京から北海道・洞爺湖までの約860キロを、各地で充電をしながら無事完走しました。合計の電気代金は約1,700円(ガソリン車は約10,000円)、CO₂排出量は約35kg* (ガソリン車は約175kg)となりました。(日本EVクラブホームページより)

* 発電時の発生量など



洞爺湖畔で記念撮影するキャラバンのスタッフ

おける実証走行を開始しており、東京電力(株)の急速充電器を活用しながら警察業務車両としての実用性などを確認しています。

さらに8月から環境省に「i MiEV」が公用車として試験的に導入されており、電気自動車の優れた環境性能や高い実用性のアピールに努めています。

「i MiEV」、海外でも実証走行試験へ

電気自動車のグローバル展開についても積極的に取り組んでいます。米国カリフォルニア州の電力会社2社と「i MiEV」の実証走行試験を開始するほか、ニュージーランドでは国営電力会社とともに電気自動車の普及活動を行います。

電気自動車の普及に向けて ～電池の量産体制と充電インフラの拡充～

2008年8月には、(株)ジーエス・ユアサ パワーサプライ、三菱商事(株)とともに設立した大型リチウムイオン電池の開発・製造・販売合弁会社「株式会社リチウムエネルギー ジャパン」が滋賀県

草津市内に新工場の用地・建屋を確保し、量産ラインの整備を開始しました。2008年度中にすべての量産設備の敷設と試験稼働を完了して、2009年度初頭より電気自動車用リチウムイオン電池を年間20万セル(「i MiEV」2,000台分に相当)生産する計画です。

また、「i MiEV」の2009年夏の市場投入に歩調を合わせ、急速充電器や充電用電源コンセントなど、



急速充電器で充電中の「i MiEV」

電気自動車の普及に不可欠な充電設備の拡充に向けて、行政、電力会社などと協議を進めています。2008年秋には、JR東京駅周辺のビル駐車場のほか、埼玉県越谷市のショッピングセンター「イオンレイクタウン」に国内商業施設として初めて、急速充電ステーションが設置されました。このほかにも、コインパーキングや商業施設へのEV用一般電源(100V、200V)の設置の検討も進められています。

洞爺湖サミットに協力

2008年7月に開催された北海道洞爺湖サミット(主要先進国首脳会議)で、「i MiEV」計10台が運営協力車両として活躍しました。各国代表団や報道関係者の連絡車、展示・試乗車として使用され、電気自動車の優れた環境性能や実用性の高さを世界に向けてアピールしました。



サミット会場で世界の注目を浴びる

「コルト」(欧州仕様)にアイドルストップ機構搭載車とFFV車を追加

2008年10月に開催されたパリモーターショーで、外観を大幅に変更した欧州生産のコンパクトカー「コルト」を出品。環境対応として、CO₂排出量の少ないアイドルストップ機構搭載モデルと、FFV(フレキシブル・フューエル・ビークル)*モデルを同時に設定しました。2008年度中に欧州市場で発売する計画です。



コルト(欧州仕様)

* FFV: ガソリンまたはエタノール、及びそれらの混合燃料でも走行可能な車

エコドライブのすすめ

当社では、CO₂排出量削減を目指し、電気自動車やクリーンディーゼルエンジンなど、さまざまな環境対応技術の開発に取り組んでいます。

同時に、一人ひとりの方がほんの少しの省エネを心掛けることで、大きな効果につながります。

環境にも家計にもやさしいエコドライブ、皆さま始めていますか？

GO-STOPの多い市街地での運転では、なんと燃料消費量全体の約4割を発進時に消費しています。「ゆっくり発進」をすることで、CO₂排出量削減と費用の節約、さらには安全にもつながります。ぜひ挑戦してみてください！

ふんわり「eスタート」*にチャレンジ

*「燃費を向上させるやさしい発進」の名称

「ふんわりアクセル[eスタート]」の方法

ポイント

最初の5秒で20km/hになるくらいのペースが目安です。
やさしいアクセル操作は安全運転にもつながります。



ブレーキから足を放し、呼吸おくるくらいでアクセルへ移します。

アクセルは、なめらかに、ゆっくり踏み込みます。

流れにのり少し手前でアクセルを緩めるとスムーズに走行できます。

出展：「ふんわりアクセルeスタート普及リーフレット」
(財)省エネルギーセンター

<http://www.eccj.or.jp/idstop/funwari/index.html>

エコドライブの効果は?!

次の4つの心掛けで、年間約20,170円の節約！
さらに、CO₂削減量は約344.2kg、杉の木の年間CO₂吸収量に換算すると24.6本分に相当します!!



年間CO₂削減量目安



年間節約金額目安

- 1 ふんわりアクセル「eスタート」で…
194.0kg CO₂削減
¥11,370円節約
- 2 加減速の少ない運転で…
68.0kg CO₂削減
¥3,980円節約
- 3 早めのアクセルオフで…
42.0kg CO₂削減
¥2,460円節約
- 4 アイドリングストップで…
40.2kg CO₂削減
¥2,360円節約

出典：「家庭の省エネ大辞典 2008年版」
資源エネルギー庁、(財)省エネルギーセンター
<http://www.eccj.or.jp/dict/index.html>

算出条件など詳細は、上記の資料に記載されています。

海外の取り組み — ロシア

中期経営計画「ステップアップ 2010」で重点市場として位置付けているロシアでは、当社の販売台数が4年間で約3倍と急拡大を遂げ、2007年度には10万台を突破。現在、日本市場に次いで2番目、海外では国別で最大の市場へと成長しています。

ロシア現地生産工場の建設に着手

需要増に対応し、長期的に安定した生産・供給を実現するため、三菱自動車はPSAプジョー・シトロエン社と、ロシアでの車両生産事業における合弁契約を締結し、2008年6月には車両組立工場の起工式を行いました。工場は2011年の操業開始を目指し、モスクワの南西180kmにあるカルーガ州に建設を予定しています。



合弁車両組立工場の起工式



起工式での
会見の様子

新型SUV「パジェロスポーツ」を世界初披露

2008年8月、モスクワモーターショーで新型SUV「パジェロスポーツ」*を世界初披露し、販売を開始しました。ロシアでは、新型「ランサー」が先代モデルに続いて3度目のカー・オブ・ザ・イヤー・ロシアを受賞するなど三菱車が大変好評を博しており、「パジェロスポーツ」の投入により、さらなる商品ラインアップの強化を図ります。

*「パジェロスポーツ」の日本での販売予定はありません。



パジェロスポーツ

「走る喜び」、お客様の多様なご要望にお応えするスポーティラインアップが充実！

**GALANT
FORTIS**

RALLIART

(ギャラン フォルティス ラリアート)



PHOTO: RALLIART ホワイトパール(有料色)



プレミアムスポーティ 4WD グレード「ラリアート」、登場

「ギャラン フォルティス」の最上級グレードとなる、プレミアムスポーティ 4WD 「ラリアート」が誕生。「ギャラン フォルティス」の実用性と快適性そのままに、本格的なスポーツドライブも楽しめる運動性能を装備。

2.0 ℓ MIVEC インタークーラー付ターボエンジンの搭載により、最高出力177kW (240ps)を発揮。一方で、排出ガスは平成17年排出ガス基準50%

低減レベルを達成し、環境にも配慮。また、ボディには空気抵抗を低減する専用フロントバンパーをはじめ、軽量なアルミ製ボンネットフードや、高効率トランスミッションのツインクラッチ SST* を搭載するなど、すみずみにレーシングテクノロジーを採用しています。インテリアはブラックを基調とし、上質で深みのあるドライビング空間を演出しています。

* SST : Sport Shift Transmission

カタログのご請求・お近くの販売店検索は…
三菱自動車 お客様相談センター



0120-324-860

平日:9時~17時 土・日:9時~12時・13時~17時
カタログのご請求は24時間受け付けております。

GALANT FORTIS SPORTBACK

(ギャラン フォルティス スポーツバック)



PHOTO:SPORT パッションオレンジパール(有料色)
ルーフスポイラーはメーカーオプション

スタイリッシュなハッチバックモデル「スポーツバック」、デビュー

2008年12月、5ドアハッチバックモデルの「ギャラン フォルティス スポーツバック」が新たに登場しました。

「ギャランフォルティス」同様の快適な室内空

間と乗降性、走りの性能に加えて、クーペをイメージするスポーティなスタイリングと使い勝手の良いラゲッジスペースで高いユーティリティを実現しています。

COLT COOL Very

(コルト クールベリー)



PHOTO:COOL Very レッドメタリック

新グレード「COOL Very」、誕生

コンパクトカー『コルト』、コンパクトワゴン『コルトプラス』に、新グレード「COOL Very (クール ベリー)」が、2008年10月に誕生。

優れた低燃費性能や、充実した“快適”“便利”

機能と装備でご好評いただいている「Very (ベリー)」に、視認性の良いハイコントラストメーター、本革巻きステアリングホイールを追加。さらにハイセンスなブラックインテリアを採用しました。



*** 軽自動車のラインナップを一新 ***

軽トールワゴン「トッポ」の復活、さらなる安心・快適装備の機能向上など、この秋、軽自動車のラインアップを一新しました。

Toppo

(トッポ)



新型「トッポ」は軽乗用車クラス最大*の1,430mmの室内高と広いガラスエリアにより、開放感のある室内空間を実現。また、安定感のある走行性能に加え、運転席ドアだけのアンロックもできるキーレスエントリーシステムや豊富な収納スペースなど、安心・快適装備を多数搭載しました。

* 2008年10月現在 自社調べ

PHOTO: G ラズベリーレッドパール(有料色)

eK WAGON

(イーケー・ワゴン)



PHOTO: GS ミントグリーンソリッド

PAJERO MINI

(パジェロ ミニ)



PHOTO: EXCEED クールシルバーメタリック/ラズベリーレッドパール/クールシルバーメタリック(3ウェイ2トーン)

「eKワゴン」「eKスポーツ」のフロントフェイスを一新。さらに、燃費性能を向上させたほか、ユーティリティ機能も強化しました。「eKワゴン」には、新色ボディカラーを4色投入しました。

「パジェロミニ」は、優れた衝突安全性能と走破性能は受け継ぎながら、内外装を大幅にリフレッシュ。上質感と使い勝手を向上しました。新色ボディカラーも加わって、さらにスタイリッシュなデザインへと生まれ変わりました。

かる乗り

手軽で安心、クルマの新しい乗り方「かる乗り」誕生

個人のお客様を対象とした軽自動車専用の新リース商品「かる乗り」を2008年9月より開始しました。登録費用、税金、点検などのメンテナンス費用など諸費用も含んだ5年定額プランで、頭金が要らず、毎月約1万8千～2万9千円のお支払いでカーライフを楽しんでいただけます。対象車種は「eKワゴン」「トッポ」「パジェロミニ」です。

www.mitsubishi-motors.co.jp/purchase/karunori/

DELICA CHAMONIX

(デリカ ディーファイブ シャモニー)



PHOTO: CHAMONIX 4WD ライトブルーメタリック/ミディアムグレーマイカ

特別仕様車「CHAMONIX(シャモニー)」、発売

2008年10月、ミニバン「デリカD:5(ディーファイブ)」仕様車「CHAMONIX(シャモニー)」を追加しました。に、冬のレジャーに適した装備を多数採用した特別ボディカラーは、新色を加えた4色展開としました。



(2008年12月最終営業日まで)

本格的な冬のドライブシーンを迎える前に、ご愛車の健康診断はいかがですか？ 冬の安全・快適なドライブに欠かせないタイヤ&バッテリーチェックを含む10項目の点検(エンジンルーム・運転席・外まわりの点検)と、オリジナルメンテナンスメニュー(撥水ガラスコーティングなど)をご用意しております。キャンペーン詳細につきましては、最寄りの販売店にお尋ねください。

MOTORSPORTS

2009年ダカールラリーに新型競技車「レーシングランサー」で参戦

2009年ダカールラリーは、従来のメインルートであった西アフリカから、舞台を南米大陸に移し、新たな局面を迎えます。“ダカール”という言葉は地名としてではなく、世界で最も過酷なラリーと意味付けられ、ダカールラリーの名称が継承されることになりました。また、三菱自動車は1983年から25大会連続で「パジェロ」で参戦を続けてきましたが、今大会よりディーゼルターボエンジンを搭載した新型競技車「レーシングランサー」で出場します。そして、ラリーを通じて培われるディーゼル技術のノウハウを、今後、市販車に搭載する新世代クリーンディーゼルエンジンなど

にフィードバックしていきます。大会史上初のディーゼルエンジン搭載車による総合優勝、そして8大会連続となる通算13勝目を目指しますので、応援を是非よろしくお願いします。



決算の概要

2008年度第2四半期連結累計期間(上半期)の実績

営業・経常利益が増益。純損益が6年ぶりに黒字転換

2008年度第2四半期連結累計期間(以下、上半期)の売上高は、販売台数の減少(13%)と為替の円高影響による減収要因はあったものの、完成車比率増加と販売車種構成の改善により、前年同期比994億円(8%)減少の1兆2,140億円と減収幅を抑えることができました。

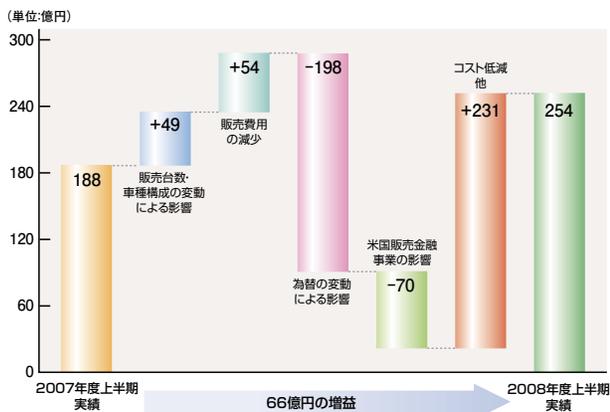
営業利益は、販売台数減少や円高、原材料高騰などの影響を受けましたが、販売車種の構成が改善したことに加え、コスト低減を進めた結果、前年同期比66億円(35%)増益の254億

円となりました。経常利益は営業利益の増加に加え、利息収支の好転や為替差損益の改善により、前年同期比143億円(214%)増益の209億円となりました。

純損益は、経常利益の増加に加え、前年度計上の国内連結販売会社の広域統合による再編費用などの特別損失の解消などにより、前年同期比184億円増加の128億円となり、上半期としては、2002年度以来6年ぶりの黒字となりました。

営業損益の改善

営業利益 変動要因分析(前年同期比)



6年ぶりに純損益が黒字化

財務ハイライト

	2007年度 上半期実績	2008年度 上半期実績	差
売上高	13,134	12,140	△994
営業利益	188	254	+66
経常利益	66	209	+143
純損益	△56	128	+184

2008年度通期業績見通し

当年度期初に公表した 当期純利益目標を目指す

2008年度通期の業績見通しは、現在の販売環境等を反映し、本年4月25日に発表した業績予想(以下、期初公表値)を見直します。

販売台数は、世界的な金融混乱、景気減速の影響で、各市場で大幅に総需要が減少することを見込み、期初公表値に比べ8万1千台(6%)減少の122万8千台とします。

2008年度通期の業績見通し

(単位:億円)

	2008年4月25日 公表値	2008年10月30日 公表値	差額
売上高	26,500	23,600	△2,900
営業利益	600	500	△100
経常利益	480	430	△50
当期純利益	200	200	0

売上高は、販売台数計画の修正と想定為替レートの見直しにより、期初公表値に対し2,900億円(11%)減少の2兆3,600億円とします。営業利益は、販売台数減少および想定為替レートの見直しによる悪化に対して、徹底したコスト低減を織り込み、100億円(17%)減少の500億円とし、経常利益は、利息収支の改善や外国為替差益を見込み、50億円(10%)減少の430億円とします。なお、当期純利益については、特別損益および法人税等の上半期での好転を含め50億円の改善を見込み、期初公表値の200億円に据え置きます。

販売実績

2008年度上半期の販売台数は、前年同期の69万1千台に対し8万9千台(13%)減の60万2千台となりました。

日本の販売台数は、総需要はほぼ前年並みで推移しましたが、販売競争激化の中、新車投入が9月以降であったため、前年同期比1万8千台(17%)減の8万3千台にとどまりました。

北米では、カナダとメキシコでは、「ランサー」「アウトランダー」が堅調に推移し販売台数が増加しましたが、米国で金融不安による消費者心理の悪化と信用収縮の影響で販売台数が大幅に減少し、北米全体では前年同期比2万1千台(22%)減の7万1千台となりました。

欧州は、西欧で販売台数が減少したものの、重点市場のロシアとウクライナでは、それぞれ前年同期比1万3千台(29%)増、6千台(43%)増と大幅に増加し、この両地域の販売台数が8万9千台に達したことにより、欧州全体では、前年同期比微増の16万8千台となりました。

アジア・その他地域では、インドネシア、フィリピンおよびブラジルが販売台数を大きく伸ばし好調を維持したものの、マレーシアのプロトン社向け海外生産用部品の供給を終了した影響のほか、中国など他の市場で総じて販売台数が減少し、前年同期比5万1千台(15%)減の28万台となりました。

財務諸表(連結)

連結貸借対照表

単位：百万円

単位：百万円

科 目	当第2四半期連結累計期間末 (平成20年9月30日現在)	前年度末 (平成20年3月31日現在)	科 目	当第2四半期連結累計期間末 (平成20年9月30日現在)	前年度末 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)	1,523,902	1,609,408	(負債の部)	1,215,356	1,281,275
流動資産	845,695	964,133	流動負債	937,370	1,030,913
現金及び預金	312,714	355,896	支払手形及び買掛金	379,471	423,729
受取手形及び売掛金	144,404	174,076	短期借入金	215,988	272,042
有価証券	5,146	5,754	1年内償還予定の社債	46,810	24,260
商品及び製品	168,610	174,999	その他	295,100	310,881
仕掛品	38,177	73,058	固定負債	277,986	250,362
原材料及び貯蔵品	63,165	51,586	社債及び長期借入金	71,308	57,606
その他	123,525	139,658	その他	206,677	192,755
貸倒引当金	△10,048	△10,897	(純資産の部)	308,546	328,132
固定資産	678,207	645,274	株主資本	386,902	387,564
有形固定資産	509,397	453,453	資本金	657,350	657,349
無形固定資産	17,777	31,825	資本剰余金	432,661	432,661
投資その他の資産	151,032	159,996	利益剰余金	△703,094	△702,432
投資有価証券	58,436	75,999	自己株式	△14	△14
その他	105,956	98,548	評価・換算差額等	△90,069	△70,750
貸倒引当金	△13,360	△14,551	その他有価証券評価差額金	724	10,676
資産合計	1,523,902	1,609,408	繰延ヘッジ損益	1,587	3,157
			為替換算調整勘定	△92,381	△84,584
			少数株主持分	11,712	11,318
			負債純資産合計	1,523,902	1,609,408

資 産 合 計：前年度末から855億円の減少

有利子負債の削減および豪州工場閉鎖関連費用の支払いなどにより、現金預金が前年度末から432億円減少したことが主因。

負 債 合 計：前年度末から659億円の減少

借入金の約定弁済により、有利子負債が前年度末比198億円減となったことが主因。

純資産合計：前年度末から196億円の減少

利益計上による増加があったものの、会計ルール変更による無形固定資産の減少に伴う利益剰余金の減少および株式の時価評価差額の減少影響などが主因。

連結損益計算書

単位：百万円

科 目	前年第2四半期連結累計期間 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	1,313,408	1,213,973	2,682,103
売上原価	1,105,428	1,006,063	2,194,741
売上総利益	207,979	207,910	487,361
販売費及び一般管理費	189,149	182,548	378,765
営業利益	18,830	25,361	108,596
営業外収益	8,206	7,544	15,245
営業外費用	20,404	12,051	38,109
経常利益	6,632	20,854	85,731
特別利益	7,879	2,551	9,484
特別損失	9,786	2,971	47,064
税金等調整前四半期(当期)純利益	4,725	20,434	48,151
法人税、住民税及び事業税	9,002	6,216	12,488
少数株主損益(損は△)	△1,349	△1,446	△952
四半期(当期)純利益又は純損失(△)	△5,625	12,772	34,710

売上高：前年同期比994億円の減収

(主な減収要因) 販売台数の減少と為替の円高影響

営業利益：前年同期比66億円の増益

(主な好転要因) 販売車種構成の改善、販売費用の減少およびコスト低減
(主な悪化要因) 販売台数の減少、為替の円高影響等および米国販売金融事業の影響

経常利益：前年同期比143億円の増益

(主な好転要因) 営業利益の増益および利息収支の改善、為替差損益の改善

当期損益：前年同期比184億円の増益

(主な好転要因) 経常利益の増益および固定資産処分損益の改善、前年度計上の国内連結販売会社の再編費用などの特別損失の解消
(主な悪化要因) 前年度計上の匿名組合精算益(特別利益)の解消

財務諸表(連結)

事業の種類別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

単位:百万円

	自動車事業	金融事業	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益					
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	1,207,758	6,214	1,213,973	-	1,213,973
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	(75)	-	(75)	75	-
計	1,207,683	6,214	1,213,897	75	1,213,973
営業利益	23,913	1,373	25,286	75	25,361

所在地別セグメント情報

当第2四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)

単位:百万円

	日本	北米	欧州	アジア	その他	計	消去又は全社	連結
売上高及び営業損益								
売上高								
(1)外部顧客に対する売上高	712,026	139,863	196,956	52,831	112,295	1,213,973	-	1,213,973
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	256,969	11,573	27,742	124,521	164	420,972	(420,972)	-
計	968,996	151,437	224,699	177,352	112,460	1,634,946	(420,972)	1,213,973
営業利益(又は営業損失)	25,582	(8,586)	(3,708)	8,444	1,300	23,032	2,328	25,361

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科 目	前年第2四半期連結累計期間 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	128,854	25,777	188,279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,239	△53,767	△48,865
財務活動によるキャッシュ・フロー	△106,003	△23,747	△132,593
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,664	△2,236	△10,186
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	7,275	△53,973	△3,365
現金及び現金同等物の期首残高	364,268	360,902	364,268
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	666	-
現金及び現金同等物の期末残高	371,544	307,595	360,902

会社の概要 (平成20年9月30日現在)

社名 三菱自動車工業株式会社
本社 〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号
TEL: 03-3456-1111 (大代表)

設立 昭和45年4月22日

従業員数 連結: 33,873名
単独: 13,560名
※上記は休職派遣者を含み、執行役員および準社員は含みません。

資本金 657,350,013,926円

発行可能株式総数 9,961,597,000株
(内訳)普通株式 9,958,285,000株
A種優先株式 438,000株
B種優先株式 374,000株
C種優先株式 500,000株
E種優先株式 500,000株
F種優先株式 500,000株
G種優先株式 500,000株

発行済株式総数 5,538,335,433株
(内訳)普通株式 5,537,898,840株
A種優先株式 99,000株
G種優先株式 338,593株

株主数 普通株式 424,841名
A種優先株式 12名
G種優先株式 4名

技術センター 岡崎地区
〒444-8501 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地
TEL: 0564-31-3100

京都地区
〒616-8501 京都府京都市右京区太秦巽町1番地
TEL: 075-864-8000

十勝研究所
〒080-0271 北海道河東郡音更町字長流枝22番1
TEL: 0155-32-7111

製作所 名古屋製作所 岡崎工場(組立)
〒444-8501 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地
TEL: 0564-31-3100

水島製作所(組立)
〒712-8501 岡山県倉敷市水島海岸通一丁目1番地
TEL: 086-444-4114

パワートレイン製作所
京都工場(エンジン)
〒616-8501 京都府京都市右京区太秦巽町1番地
TEL: 075-864-8000

パワートレイン製作所
滋賀工場(エンジン)
〒520-3212 滋賀県湖南市小砂町2番1
TEL: 0748-75-3131

パワートレイン製作所
水島工場(エンジン、トランスミッション)
〒712-8501 岡山県倉敷市水島海岸通一丁目1番地
TEL: 086-444-4114

役員 (平成20年9月30日現在)

取締役

西岡 喬* 取締役会長(三菱重工株式会社相談役)
益子 修* 取締役社長
前田 真人* 取締役副社長
市川 秀* 常務取締役
春成 敬 常務取締役
相川 哲郎 常務取締役
橋本 光夫 常務取締役
菊池 一之 常務取締役
青砥 修一 取締役
松本 伸 取締役
太田 誠一 取締役
黒田 浩 取締役
佐々木幹夫 取締役(三菱商事株式会社取締役会長)
矢嶋 英敏 取締役(株式会社島津製作所代表取締役会長)

- (注) 1. *印は代表取締役を示しています。
2. 佐々木幹夫氏および矢嶋英敏氏は、
会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

監査役

氏田 憲秀 監査役(常勤)
江川 健二 監査役(常勤)
三木 繁光 監査役(株式会社三菱東京UFJ銀行相談役)
菅 宏 監査役(三菱重工株式会社取締役、常務執行役員)
岡本 行夫 監査役(株式会社岡本アソシエイツ代表取締役)

- (注) 三木繁光氏、菅宏氏および岡本行夫氏は、
会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会開催日 6月下旬
- 同総会議決権行使株主確定日 3月31日
- 期末配当金支払株主確定日 3月31日
- 中間配当金支払株主確定日 9月30日
- その他の基準日 上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
- 公告の方法 電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載アドレス <http://www.mitsubishi-motors.com/KOUKOKU>
- 名義書換 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
- 手数料 不所持株券の発行による株券の交付又は株券の分割、併合、汚損、毀損による株券の交付の場合は、1枚につき印紙税相当額となります。
- 1単元の株式数 1,000株
(郵便物送付・照会先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL:0120-232-711 (フリーダイヤル)

第2回 工場見学会 開催のご報告

2008年9月に、株主様向けに水島製作所の見学会を開催しました。当日は生産の現場を間近でご見学いただいたほか、三菱自動車のさまざまな取り組みを直接お伝えしました。

今後とも株主の皆さまとのコミュニケーションをさらに深めていきたいと考えています。



三菱自動車ウェブサイト投資家情報ページ

当社ウェブサイト内の投資家情報ページをぜひ活用ください。
当社をより一層ご理解いただくための情報をまとめて掲載しております。
<http://www.mitsubishi-motors.co.jp/corporate/ir/>



Drive@earth (ドライブ・アット・アース)

三菱自動車の新しい企業コミュニケーションワード。

地球と、社会と、クルマの共生をめざし、走る歓びと環境への配慮を両立させた、新世代のクルマづくりに取り組んでいく企業姿勢を表した言葉です。

株主通信 ROUTE

三菱自動車工業株式会社
平成20年度(2008年度) 中間のご報告

広報部 平成20年12月5日発行
〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号
TEL:03-3456-1111 (大代表) <http://www.mitsubishi-motors.co.jp>